

# 地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,  
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第 223 号 会 報 2015 年 5 月 22 日

目	次
会長就任にあたり 山崎俊嗣・・・1	中間圏・熱圏・電離圏研究会平成 26 年度活動報告
副会長を務めるにあたって 渡部重十・・・2	陣英克・大山伸一郎・新堀淳樹・鈴木臣・鈴木秀彦・富川喜弘・横山竜宏・・・10
第 28 期役員選挙結果・・・2	波動分科会平成 26 年度活動報告
臨時運営委員会報告・・・3	成行泰裕・・・11
第 27 期第 10 回運営委員会議事録・・・4	International Symposium on the Whole Atmosphere のお知らせ 佐藤薫・・・11
第 28 期第 1 回運営委員会議事録・・・7	衛星設計コンテストのお知らせ・・・12
第 137 回総会開催のご案内・・・8	助成公募・学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール・・・17
2015 年秋学会のお知らせ・・・8	SGEPSS カレンダー・・・17
学会費納入についてのお知らせ・・・9	賛助会員リスト・・・18
「Conductivity Anomaly 研究会」分科会平成 26 年度活動報告 山口 覚・・・9	

## 会長就任にあたり

### 第 28 期会長 山崎俊嗣

今年度より 2 年間会長を務めるにあたり、ご挨拶申し上げます。前期に中村前会長のもとで副会長を経験し、10 年程前に運営委員だった頃と比べ、本学会の発展に伴う活動の広がりに加え社会との関わりを広げる必要性などから、運営委員の仕事もより多岐にわたっていることを実感しました。今期は運営委員が大幅に入れ替わり、16 名中 11 名が今期からの新しい方です。運営委員の交代は、新しい見方、考え方を取り入れ活動を見直す良い機会でもあります。幸い、運営委員は意欲にあふれた方々ばかりであり、また高い見識と

豊富な経験を持つ評議員の方々に恵まれ、円滑な会の運営ができるものと考えております。前期に本学会の法人化について検討した結果、今すぐには法人化をしないという結論になりました。しかし、法人格の有無にかかわらず、運営の透明性を保ち、社会に説明責任を果たすことは必要ですから、本学会 HP 等で法人格を持つ団体と同等の情報公開をできるように準備いたします。前期には学生会員制度の大幅な変更を行い、学生会員が大幅に増加しました。制度導入にあたり、事務的には煩雑な点が生じ多少の混乱がありましたが、学生諸氏に学会との繋がりを自覚していただくという趣旨のもと、制度の定着と円滑な運用へ向けて改善できる点は改善してまいりたいと思います。

間近に迫っている本学会に関係の深いこととして、2016 年からの国立大学の第 3 期中期計画期

間へ向けて、文部科学省において今年夏にも行われる予定の共同利用・共同研究拠点の認定更新や新規認定があります。本学会のカバーする研究分野は、地球内部・超高層などの分野を問わず、大型観測装置等インフラの共同利用や、国内外の共同研究に支えられているところが大きく、国立大学の全国共同利用・共同研究体制の維持・拡充は本学会のサイエンスの基盤として必要不可欠ですので、本学会としても、関係方面にこのような研究者コミュニティとしての要望を伝えるべく対応してまいりたいと思います。

会員の研究成果を国際的に広く発信するためには、自分たちの学術誌を発展させることが重要です。本学会をはじめ関係5学会で共同刊行している学術誌 Earth Planets Space は、前期に Open Access 電子ジャーナルとして新たな出発をしました。幸い、投稿数、出版論文数は以前よりはるかに増加し、引用度数も上昇しております。また財政的にも科研費から大きな支援をいただくことができ、まずは順調に進んでいることは、EPS の編集・運営に関わってこられた本学会員の努力によるところが大です。今期中に、科研費支援についての中間評価を受けることとなっており、また、日本地球惑星科学連合の出版事業の中での位置づけなど議論を早急に進めなければならない課題もあります。しかし、何より重要なのは良い論文がさくさん投稿されることであり、これをなくしては学術誌の発展はありませんので、会員の皆様の優れた論文を積極的に EPS に投稿していただきませうようお願いします。

今後2年間、本学会と科学の発展に資するため、運営委員一同全力で活動したいと考えておりますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 副会長を務めるにあたって

### 渡部重十

副会長に選出されました渡部です。大変大きな任務を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

私の学会での最初の発表は、日本地球電気磁気学会で大気光観測とモデリングでした。教科書でしか知らない先生方の前で緊張して発表させていただきました。ポストドクとして海外に滞在していた期間を除いて、休まずに出席させていただきました。

した。多くの先生方や先輩・友人との議論にわくわくするとともに、研究を進めるアイデアを沢山いただきました。アップルトンアノマリーという言葉が講演で使ったときは、エクアトリアルアノマリーと言ったほうがいい、と休み時間に指摘していただいたこともあります。また、総会での白熱した議論に圧倒されたことも記憶しています。その時、学会は会員の情熱によって維持されているのだと強く感じました。

運営委員をさせていただいたときには、研究発表としての学会だけでなく、日本そして世界の科学技術の発展を常に考えつつ学会運営をしていかなければならないということを実感しました。私たちには、多くの国際会議があり学術誌も多数あります。この中で、私たちの学会は、日本の科学技術はどうあるべきか、私には永遠のテーマとして考えさせられました。評議員をさせていただいたときには、10年、数十年先の学会や私たちの研究の方向性を考えつつ判断しなければならないという重責がありました。

科学技術は、今までにないスピードで変化しています。研究者の社会的な責任は大きくなり、最近では成果を常に求められます。研究費の不正も後を絶ちません。このような状況で、学会の重要性がさらに増してきていると思います。

地球電磁気・地球惑星圏学会の発展的将来のために微力ながら貢献できればと思います。2年間を修行期間と考えて改めて学会の活動を学びたいと思います。会員の皆様にご指導いただき、山崎会長を支えて、副会長としての任務を全力でやり遂げたいと考えています。

よろしくお願ひいたします。

## 第28期役員選挙の結果

1月16日に投票が締め切られた第28期役員選挙投票は、去る1月19日に開票され、その後、山崎俊嗣新会長を中心とした運営委員の会長枠の検討の結果、以下のように確定しましたのでお知らせします。

=== 選挙結果 ===

副会長選挙結果 (有効投票総数 170)

氏名	得票数
渡部重十	43 当選

大村善治 39 次点  
山本 衛 21  
以下省略

14 橋本久美子 118 会長枠  
15 天野孝伸 113 会長枠  
16 馬場聖至 30 会長枠  
17 藤浩明 10  
18 小田啓邦 7  
以下省略

評議員選挙結果 (有効投票総数 178)

順位	氏名	得票数	
1	家森俊彦	129	当選
2	藤井良一	124	当選
3	津田敏隆	120	当選
4	歌田久司	109	当選
5	山本 衛	108	当選
6	小原隆博	104	当選
7	大村善治	96	当選
8	浜野洋三	83	当選
9	渡部重十	82	新副会長
10	中村卓司	51	当選
11	塩川和夫	48	
12	湯元清文	37	
13	綱川秀夫	22	

以下省略

「会長枠」については内規に以下の通り定められています。

内規第 2 条 3： 運営委員については下記の様式に従い 13 名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位 13 名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮し、新副会長、新旧運営委員と協議の上、定数 16 名の残り 3 名を選出する。

(第 27 期運営委員・総務 篠原育)

## 第 27 期臨時運営委員会報告

評議員は中村正人前会長を加えた 10 名となります。なお、評議員当選については内規に以下のように定められています。

内規第 2 条 2： 評議員の選出は 9 名連記無記名投票を行い、得票数の順位に従って上位 9 名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。評議員については、選挙で選ばれても辞退することができる。

日時： 2015 年 1 月 27 日 (火) 13:00-15:00  
場所： テレビ会議 (親局＝名古屋大学 STE 研、子局＝京大地磁気センター、ISAS、東大地震研、九大、東北大、NICT)

出席者 16 名 (総数 18 名、定足数 11 名)：中村正人 (会長)、山崎俊嗣 (副会長)、大塚雄一、小田啓邦、尾花由紀、坂野井和代、塩川和夫、篠原育、藤浩明、長谷川洋、畠山唯達、馬場聖至、村田功、村山泰啓、吉川顕正、吉川一朗  
欠席者 2 名：小嶋浩嗣、中村卓司

運営委員選挙結果 (有効投票総数 184)

順位	氏名	得票数	
1	大塚雄一	158	当選
2	坂野井和代	150	当選
3	畠山唯達	146	当選
4	加藤雄人	145	当選
5	中村教博	144	当選
5	吉村令慧	144	当選
7	岡田雅樹	141	当選
8	松島政貴	139	当選
9	田口聡	137	当選
10	齋藤義文	137	当選
11	松清修一	136	当選
12	小嶋浩嗣	131	当選
13	田所裕康	123	当選

### 1. 助成関係

#### 1.1 国際学術交流事業の審査 (藤)

○ 海外研究者招聘：野口会員より 1 件の申請があり、審査の結果、採択 (S. A. Tellmann 氏を JpGU 連合大会に招聘) することとした。

○ 若手派遣に 3 件の申請があり、審査の結果、2 件 (Perwitasari 会員と塩田会員) を採択することとした。

#### 1.2 若手派遣の年齢制限について

○ 「応募時に 37 才以下という縛りがあるが、今後社会人ドクターを増やす方向である事を考えれば、学生会員に関してはこの縛りを取るべきではないか？」という問題提起があった。議論の結

果、38 才以上であっても、学生会員または学位取得後 5 年以内の会員であれば、応募可能とすることとした。

## 2. EPS 誌 (小田)

○ 昨年 12 月 24 日に開催された平成 26 年度第 3 回 EPS 誌運営委員会の概要が報告された。水文関連 5 学会のレター誌立ち上げに関する会議で、EPS 誌運営委員会議長として講演を予定している。

○ 3 月に EPS 誌編集委員会を開催し、次期議長を決定する予定。

○ EPS 誌 5 学会分担金の今後についての議論が必要であり、半年ぐらいのうちに議論していく予定であることが報告された。H27 年度の SGEPS の分担金は 150 万円。

○ EPS-JpGU 覚書案が提示された。覚書案を関係者に送り、確認していただくこととした。

○ 納品・検収要領と納品確認書の案が提示され、承認された。

○ 現在、運営委員会議長と編集長の両方を SGEPS 会員が担当していることは、5 学会分担の観点からは問題であるという意見が出された。3 月の運営委員会にて、議長・EPS 科研費の会計責任者を分離すること、EPS 基金の会計を他学会に担当いただくことについて議論する。

## 3. 賞 TF (馬場)

○ 藤原賞：会員 1 名から推薦があったので、学会から推薦することとした。

○ 山田科学振興財団助成：会員 2 名を学会推薦することとした。

○ 宇宙科学奨励賞：学会推薦していた会員 1 名の申請は不採択となったが、吉岡和夫会員が受賞することとなった。

(第 27 期運営委員・庶務 長谷川洋)

# 第 27 期第 10 回運営委員会報告

日時： 2015 年 4 月 1 日 (水) 10:30-12:30

場所： 東京大学地震研究所 事務会議室 A、テレビ会議 (親局＝地震研究所、子局＝京大地磁気センター、極地研、NICT)

出席者 17 名 (総数 18 名、定足数 11 名)： 中村正人 (会長)、山崎俊嗣 (副会長)、大塚雄一、小田啓邦、尾花由紀、小嶋浩嗣、坂野井和代、塩川和夫、篠原育、藤浩明 (TV 会議参加)、長谷

川洋、畠山唯達、馬場聖至、村田功、村山泰啓 (TV 会議参加)、吉川顕正、中村卓司 (TV 会議参加)

欠席： 吉川一朗

オブザーバー： 渡部重十 (第 28 期副会長)、加藤雄人、中村教博、吉村令慧、岡田雅樹、松島政貴、齋藤義文、田口聡、松清修一、橋本久美子、天野孝伸 (以上第 28 期新運営委員、欠席： 田所裕康)

## 0. 前回議事録の確認 (総務)

第 27 期臨時運営委員会議事録を確認し、承認した。

## 1. 選挙結果報告 (総務)

第 28 期の副会長、評議員、運営委員の選挙結果について報告された。

## 2. 協賛・共催関係 (庶務)

メール審議で承認済みの、下記の共催 1 件、協賛 3 件について報告された。

○ 共催： 衛星設計コンテスト

主催： 財団法人日本宇宙フォーラム、日本機械学会、日本航空宇宙学会他

開催期間： 2015 年 4 月～11 月

開催場所： 一橋大学一橋講堂等

※平成 27 年度のアウトリーチ実行委員の引き継ぎについて、書面で回答したことを確認した。表彰式には、28 期会長が出席する。

○ 協賛： The 3<sup>rd</sup> AOSWA Workshop 2015

主催： Asia-Oceania Space Weather Alliance、情報通信研究機構

開催期間： 2015 年 3 月 2～5 日

開催場所： ザ・レイガンズ スパ&リゾート

HP:[http://aoswa.nict.go.jp/workshop\\_3/index.html](http://aoswa.nict.go.jp/workshop_3/index.html)

○ 協賛： 流体力学基礎講座－基礎学理から数値流体力学・流体計測の基礎と実例まで－

主催： 日本機械学会 流体工学部門

開催期間： 2015 年 6 月 18～19 日

開催場所： 東京大学生産技術研究所 An 棟 401・402 (中セミナー室 1)

○ 協賛： 日本流体力学会年会 2015

主催： 日本流体力学会

開催期間： 2015 年 9 月 26～28 日

開催場所： 東京工業大学大岡山キャンパス

HP: <http://www.nagare.or.jp/>

また、下記の協賛依頼 1 件について、審議の上、承諾することとした。

○ 協賛： 地学オリンピック 2015 年度関連事業

主催： 地学オリンピック日本委員会

開催期間： 2015 年度

開催場所： ブラジル Pocos de Caldas、国内での予選、選抜大会等

HP: <http://jeso.jp/>

協賛金： 一口 5 万円

※2016 国際大会用の協賛として、一口協賛する。

### 3. 入退会審査（庶務）

以下 6 名の退会、2 名のシニア会員への移行、および 9 名の学生会員から一般会員への移行を承認した。

退会： 高山寛美、青山隆司、広井修、村岡良和、板部敏和、小塚幸央

シニア会員： 小川忠彦、筒井稔

学生会員から一般会員への移行： 前田隼、石田哲朗、北元、堺正太郎、原拓也、青木翔平、益永圭、山幡琢也、栗田怜

3 年以上会費未納の会員 4 名を強制退会とした。最新の会員入退会状況にあわせて、ML への登録アドレスを修正することとした。

### 4. 審議事項

#### 4.1 規約改正

規約の中で、正会員の中で海外会員とシニア会員を区別して定義する件につき、総務から提示された修正案を承認し、次の総会で審議にかけることとした。

#### 4.2 広報（会報）ソフトウェア使用料の予算化

現在使用している編集ソフト（Adobe InDesign）は、会報担当 3 人分のライセンスが引き継ぎできない（一つのみ維持可能）。新たな Adobe のライセンスサービスを購入する場合、最低年間 47000 円（アカデミック価格）が必要となる。会報は冊子配布をやめたので、冊子用の組版をする必要はもはやない。したがってデザインを簡略化して、MS-Word などを使って編集し、PDF 保存するという、費用のかからない方法もある。28 期の広報担当で、どのソフトが今後使い勝手がよいかを検討する。従来のやり方がよくて Adobe のライセン

スが必要だと判断した場合には、必要な予算措置をとることとした。

### 5. 各種賞推薦状況（賞 TF）

山田科学振興財団 平成 27 年度研究費援助に 2 名の会員を推薦した。また第 12 回（平成 27 年度）日本学術振興会賞へ 1 名の会員を推薦することを決めた。

### 6. 第 27 期運営委員会の総括（会長）

27 期はとくに大きな懸念事項は無かった。副会長、運営委員に支えられてうまくやってこられた。学生会員の制度を変えたのが大きかったが、この方向で続けてほしい。

### 7. 各担当からの総括

#### 7.1 総務

各運営委員の活動負荷軽減・均等化、各担当業務のマニュアル化を進めたが、十分にできなかったので次期に引き継いで取り組んで頂きたい。代々引き継がれてきた資料を電子化したりして整理し、処分した。

#### 7.2 庶務

学生会員制度について、入退会情報管理について、更なる改善が必要と思われる。また、MMB の管理費は会員数に比例するが、現行の学生会員制度の運用では、会員数がどんどん増えてしまい、会計に負担をかける恐れがある。また事務手続きもかえって煩雑化している。

海外会員と一般会員に帯するサービスの差別化がなくなってきている。海外会員の維持することの妥当性について検討が必要と思われる。関連して、外国人研究者が海外会員になることについて、日本語のホームページがない（支払いが難しい）などの不便がある。

名簿について、会員管理システムの情報を引用するか、電子化するかなど、どのようなサービスにするかも含めて検討が必要である。

保管している郵便物等について、庶務の判断で適宜整理、処分する（科研費関係の書類は 5 年間の保管義務がある）。

#### 7.3 会計

H26 年度は、緊縮財政した。

#### 7.4 EPS

EPS は、科研費が採択されて当面の財政は安定した。出版社を変えて、Open Access 化できた。28 期の新体制について、SGEPSS より EPS 運営委員 2 名、オブザーバー 2 名を派遣することとした。

#### 7.5 秋学会

秋学会の会計の明朗化（LOC と学会のきりわけ）について、法人と同等の透明性の確保のためには重要である。学生会員制度とその運用が煩雑なので、マニュアルを整理していく必要がある。投稿サイト・事前登録サイトの改善についても検討を要する。

#### 7.6 助成

応募件数が一時期減少したが、きめ細かく広報することで持ち直してきた。若手派遣について、内規を改正し、学生会員、博士取得後 5 年以内について年齢制限を撤廃した。

#### 7.7 連合大会プログラム委員

JpGU セッション共催申請の受付について、毎年開催されている継続的なセッションについては、即共催を認めて運営委員会に報告するようにし、メールのトラフィックを減らす方向で作業を進めた。

#### 7.8 連合対応（環境・災害・キャリアパス・男女共同参画）

環境災害対応委員会は、年に 2 回の会議で、JpGU での共催する環境・災害関連セッションを議論して決めた。また防災教育についての意見交換をした。

キャリアパス・男女共同参画担当は、昔は各学協会から委員を JpGU に出していたが、現在は JpGU と SGEPSS 運営委員会の直接的な関係はない。ただし実際には SGEPSS の男女共同参画の活動は JpGU と協力して行っているため、両者の接続の役割がある。

#### 7.9 広報（Web/ML）

サーバーおよびドメインのさくらインターネットへの移行を行い、無事完了した。賛助会員のロゴを Web に掲載した。過去の講演会予稿集を PDF 化して Web に掲載した（未完）。ML について、アドレス更新作業を簡略化し、PAC への委託作業

量を減らした。ML の添付ファイル容量は、自由に設定可能になった（現在 sgeadm は無制限、sgepsall、sgepsbb は 1MB）。ML の記事を Web に掲載するのが未だ手作業なので、自動化について検討する余地がある。

予稿集 PDF 化の未完分は、28 期に引き継いで行う。

#### 7.10 広報（会報）

紙媒体の配布を中止したが、とくにクレームはない。新たにリレー記事の掲載を始めた。賛助会員の広告を掲載するようにした。会報の回数（現在は年 4 回）については、再考の余地がある。

#### 7.11 アウトリーチ

秋学会での一般公開向けイベントと記者発表について秋学会担当と綿密に連携する必要がある。イベント開催費用を確保するために、科研費をとることが重要。他には講師派遣事業、若手のアウトリーチ活動への助言、予算措置、衛星設計コンテスト、女子高生夏の学校への広報・派遣、が主要な業務となっている。

#### 7.12 男女共同参画

秋学会時の保育室運営は、子育て中の方々を学会としてサポートして行くとのメッセージ性の観点も含めて、今後も継続することが重要。男女共同参画学協会連絡会に参加して年数回の運営委員会で情報収集をしている。SGEPSS では従来から若手のキャリアサポートを重視してきたが、若手の具体的な声が聞きづらくなっている。声を拾いあげて具体的な活動へ繋げていくことが今後の課題である。

#### 7.13 学生発表賞

連合大会時の授賞式から 28 期担当へ引き継ぐ。学生会員制度と関連して、投稿システム上の文面の修正が必要。

#### 7.14 3 学会合同プラズマ

次回 SGEPSS が主催して JpGU で開催する場合は、かなり大きな会場を確保しなければならないので、早めに JpGU と交渉する必要がある。JpGU も AGU、EGS との共催など形態を大きく変える可能性があるため、注意が必要である。

## 7.15 賞 TF

27 期では、8 つの賞・研究助成に対して活動した。推薦依頼は総務宛に来るので、総務との連携を密に取る必要がある。学会として推薦を依頼されていることは名誉なことであるので、今後もよい研究者を推薦していくことが重要。

## 7.16 財政・法人化 TF

当面は法人化を目指さないが、法人と同様の透明性・説明責任を果たしていく必要がある、また必要になったときには、すぐ法人化できるよう準備しておくという結論になった。28 期では、それにむけた変更・検討をしていくことになる。

## 8. その他

名古屋大学が、学内の新しい研究所（太陽地球環境研究所）を共同利用拠点として申請をするにあたり、SGEPSS からサポートレターを出すことを承認した。なお、JpGU 時の 5 月 24 日昼の会合でこの件に関して広く意見を聞く場が設けられるので、SGEPSS から山崎会長と渡部副会長が出席することとした。

他の共同利用機関からも同様の依頼が来る可能性がある、それぞれに SGEPSS としての判断を行って対処する。

（第 27 期運営委員・庶務 馬場聖至）

# 第 28 期第 1 回運営委員会報告

日時： 2015 年 4 月 1 日(水) 14:00-15:30

場所： 東京大学地震研究所 事務会議室 A

出席者(17 名、定足数 11 名)： 山崎俊嗣(会長)、渡部重十(副会長)、大塚雄一、坂野井和代、畠山唯達、加藤雄人、中村教博、吉村令慧、岡田雅樹、松島政貴、齋藤義文、田口聡、松清修一、小嶋浩嗣、橋本久美子、天野孝伸、馬場聖至

欠席： 田所裕康

オブザーバー： 小田啓邦

## 1. 役割分担の確認

第 28 期運営委員の役割分担を確認し、承認した。各委員の担当は以下の通り。

総務：大塚雄一

庶務：天野孝伸(主)・松島政貴(副)

会計：岡田雅樹(主)・小嶋浩嗣(副)

雑誌：加藤雄人(主)、吉村令慧(副)、馬場聖至(副・EPS 会計)

秋学会：中村教博(主)・畠山唯達(副)・齋藤義文(副)

広報 Web/ML：松清修一(主)・加藤雄人(副)・田所裕康(副)

広報会報：橋本久美子(主)・坂野井和代(副)・田口聡(副)

アウトリーチ：田所裕康(主)・坂野井和代(副)・中村教博(副)

男女共同参画：坂野井和代(主)・橋本久美子(副)  
助成金：田口聡(主)・松島政貴(副)

学生発表賞：吉村令慧

3 学会プラズマ対応：松清修一

連合大会プログラム委員：齋藤義文(主)・畠山唯達(副)

連合対応(環境)：岡田雅樹

連合対応(災害)：小嶋浩嗣

賞 TF：渡部重十(主)・松島政貴(副)・田口聡(副)・齋藤義文(副)

法人対応 TF：渡部重十(主)

○ 山崎会長から名簿担当はこれまで庶務の仕事であったが、もしオンライン化するならば広報 Web/ML も担当すべきではないかとの指摘があった。

○ 法人対応 TF(仮称)の設置が提案され、承認された。担当の渡部副会長を中心にメンバー構成する。会計報告、活動報告、規約見直、選挙制度改善などが検討課題として挙げられた。

○ EPS 関連の仕事増のため雑誌担当を 2 名から 3 名に増員した。EPS 運営委員会(各学会 2 名)には小田運営委員補佐と加藤委員を派遣する。吉村委員・馬場委員はオブザーバーとして参加し、馬場委員は EPS 科研費会計を担当する。

## 2. 学会賞関係

2.1 長谷川・永田賞候補者選考委員会委員の選出  
長谷川・永田賞に 2 名の推薦があった。それぞれ受賞候補者選考委員会を設置した。

## 2.2 学会特別表彰

学会特別表彰に 2 件の推薦があった。議論の結果、どちらも山崎会長から評議員会へ推薦する。特別表彰の内規と Web の記述が異なるとの指摘があり、Web を修正することにした。

### 3. 秋学会関連（日程、web 投稿、特別セッション、アウトリーチ）の準備状況確認

- 2015 年 10 月 31～11 月 3 日 東京大学本郷キャンパスにて開催
- 大会委員長は岩上会員
- 昨年度から LOC の予算を 95 万円に増額した。
- 窓口業務・懇親会担当は原則として LOC へ依頼する。
- アウトリーチは 4 日目の予定。
- LOC に保育室担当を設置し、近隣の施設を探してもらうように依頼する。
- 特別セッションは 4 月半ばに call for を出し、JPGU 中の運営委員会で審議する。
- 次々回の秋学会の開催地の検討を開始する。

### 4. 次回運営委員会・評議員会・総会（連合大会：5/24-28 中の日程確認）

下記の通り日程を確認した。

- 運営委員会：5/24(日) 18:30-20:30 203 室  
評議員会：5/25(月) 18:30-20:30 202 室  
総会：5/26(火) 13:00-14:00 302 室  
(PAC には 25、26 日に来てもらうように依頼する。)
- 国際学術交流外国人招聘・若手派遣についてすぐに call for を出し、締切を運営委員会の最低でも 1 週間前とする。分野の近い委員に査読してもらい、JPGU 中の運営委員会で審議する。審査基準が曖昧との指摘が有り、基準を検討することになった。メールベースで審議する。
  - 分科会の部屋について必要以上に高額な部屋にならないよう予約を早めにしてもらうよう案内メールに明記するよう会計担当から依頼があった。

### 5. その他

- 会報について  
昨今は秋学会の告知などはほとんどメールベースで行われるため、会報はどちらかと言えば議事録・受賞者情報などのアーカイブとしての意義が大きい。電子版になった今となつてはデザインに拘る必要性はあまり無く、ライセンス料の高い Adobe InDesign を用いるよりも MS-Word を用いて作成してはどうかと会報担当からの提案があり、承認された。

(第 28 期運営委員・庶務 天野孝伸)

## 第 137 回総会開催のご案内

第 137 回総会を連合大会開催中の下記の日時に開催します。

開催日時：平成 27 年 5 月 26 日(火) 13:00～14:00

開催会場：幕張メッセ国際会議場 302 室

(日本地球惑星科学連合 2015 年大会会場)  
学会規約の改正や学会賞授与などの重要な議事がありますので、会員の方は是非ご出席ください。やむを得ず欠席される場合は、事前に委任状を会長宛てに郵送いただくか、運営委員にお渡しください。また、電子メールでの委任状も受け付けます。詳細は、sgepssall のメーリングリストにてお知らせした通りです。

(第 28 期運営委員・総務 大塚雄一)

## 2015 年秋学会のお知らせ

2015 年秋学会（第 138 回総会・講演会）は、10 月 31 日（土）～11 月 3 日（火・祝）に東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）で開催されます。アブストラクト投稿は 6 月下旬～7 月下旬の期間になる予定です。皆様のご参加・ご講演をお待ち申し上げます。

### 特別セッションの募集

2015 年秋学会（10 月 31 日～11 月 3 日）の講演会開催に向けまして、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。次の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー：お名前, ご所属, ご連絡先
2. セッションタイトル（日本語および英語）
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模（参加見込人数）

応募先：fm @ sgepss.org

締切：2015 年 5 月 15 日（金）17:00

ご応募頂いた提案は、運営委員会で検討した後、結果を会報やホームページ等で周知させていただきます。多数のご応募をお待ちしております。

尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡下さい。

(第 28 期運営委員・秋学会担当 中村教博、齋藤義文、畠山唯達)

## 学会費納入についてのお知らせ

2015 年度学会費納入を順次ご案内しております。経費削減のため、昨年度から「銀行振込」の会員のみ書面で、それ以外の会員には電子メールで案内をさせていただいております。所定の方法によってお支払い頂きますよう、お願い申し上げます（納入期限：7 月 31 日）。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入して頂く会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障をきたします。督促作業には経費とともに人的コストが相当かかりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、学生会員については秋学会への参加費として会費は領収されますので、今回の学会費納入案内は行いません(正会員へ移行になる会員には案内をお送りしました)。今年度の秋学会に不参加等の理由で別途会費納入を希望する学生会員は事務局までご連絡をお願いいたします。

当学会の会費納入は以下の 5 つの方法よりお選びいただけます。

- (1) 銀行振込（校費払いも可能）
- (2) 銀行口座自動引き落とし（7 月下旬に引き落とし予定）
- (3) クレジットカード払い
- (4) コンビニエンスストアでの支払い
- (5) JPGU 会場 SGEPPS デスクでの支払い

### （現金のみの取り扱い）

学会費の支払い方法変更については随時受け付けておりますが、基本的には翌年の支払い時から有効となります。もし今年度の学会費支払い方法を変更されたい場合は至急事務局 (sgepss@pac.ne.jp) にご連絡ください。

銀行口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。毎年の支払いの手間を省くには、銀行口座自動引き落としが便利でお勧めです。ご希望の方は書面による手続きが必要となりますので事務局へお問合せください。

平成 27 年度 JPGU 会場の学会デスクにおける会費支払いは、5 月 25 日（月）の午後、及び 26 日（火）の全日に受け付けています。

（第 28 期運営委員・会計担当 岡田雅樹、小嶋浩嗣）

## 「Conductivity Anomaly 研究会」 分科会平成 26 年度活動報告

山口 寛

### 1. 2014 年度 Conductivity Anomaly 研究会の開催

2014 年度の Conductivity Anomaly 研究会は、京都大学防災研究所・一般研究集会「地殻電気伝導度不均質構造に関する研究集会」（研究代表者橋本武志）の支援を受け、2015 年 1 月 8 日～9 日に、京都大学理学研究科セミナーハウスにて開催されました。口頭発表 27 件、ポスター発表 12 件の研究集会にあつて、参加者数は 63 名（うち学部生・大学院生 14 名）に達しました。今回の研究集会も、地震、火山活動、津波などに起因する地球電磁場変化の検出とその変化の解釈、地球内部比抵抗構造の様々なスケールでの新たな解明とその推定手法の開発、日本の地磁気モデルの開発などの講演と有意義な議論が行われました。前回の研究集会と同様に、学部 4 年生、大学院生の口頭発表・ポスター発表が数多く行われ、参加者との活発な議論が交わされました。

また今回の研究集会では、GIC（地磁気誘導電流）をテーマとした特別セッションが企画され、超高層物理・宇宙天気分野から、能勢正仁氏（京都大学）、亘慎一氏（情報通信研究機構）、藤田茂氏（気象大学校）に講演いただきました。分野横断的なテーマでの積極的な研究交流の蓄積を通じた、新たな研究テーマの開拓が期待されています。



（写真：後藤忠徳氏）

### 2. Conductivity Anomaly 研究会論文集 2015 の刊行

2015 年 1 月に開催された研究会における講演をもとに「Conductivity Anomaly 研究会論文集 2015」を刊行しました。論文集は web 版の公表と

共に CD-ROM 版も作成・配布されています。論文  
集の Web 版は下記 URL のうち、「発行年 2015」  
から閲覧できます。

[http://www.eqh.dpri.kyoto-u.ac.jp/CA/CA\\_Proc.html](http://www.eqh.dpri.kyoto-u.ac.jp/CA/CA_Proc.html)

また、上記ページには、過去に刊行された論  
文集も掲載されています。

### 3. 分科会打合せ会

2014 年度は 3 回の打合せ会を実施しました。

打合せ会では、研究会の運営に関する議論や決  
定と、観測研究計画の情報交換などを、主に行っ  
ていますが、2014 年度は運営面で二つの進展を  
見ることができました。

一つは、2013 年度に新たに始めた、春学会・  
秋学会のコンビナーの当番制にもとづいて、コン  
ビナーの系統的な交代が始まりました。2 人のコン  
ビナーが 2 年任期で毎年 1 人ずつ交代していく  
方式の導入で、それまで若手に偏っていたコンビ  
ナーの負担を、構成員全体で分担する体制になり  
ました。

もう一つは、春学会時の地球内部電磁気学の口  
頭発表セッションのあり方をめぐる丁寧な議論を  
行いました。春学会における口頭発表セッション  
が、無二の研究発表の場として、また他分野への  
存在のアピールの場としての貴重さが討論を通じ  
て再確認されました。その一方、他分野との横断  
的な議論の場を積極的に追求することや、口頭発  
表セッションの活発化自体を求める意見も表明さ  
れました。

## 中間圏・熱圏・電離圏研究会

(略称：MTI 研究会)

### 平成 26 年度活動報告

陣英克・大山伸一郎・新堀 淳樹・  
鈴木臣・鈴木秀彦・  
富川喜弘・横山竜宏

当分科会は、超高層大気物理学、中層大気物理  
学、地球電磁気学、電波工学など様々なバックグ  
ラウンドを持つ研究者が相互に交流し、協力し合  
う場を作り、より効率的・効果的な研究活動に繋  
ぎを目的として活動している。平成 26 年  
度には、連合大会及び SGEPPS 秋学会開催期間中

に会合を持ち、国内外において現在進行中のプロ  
ジェクト、研究計画などについて情報交換を行っ  
た。また、平成 26 年 9 月 22-24 日には、分科会  
参加者が中心となり、同分野の研究集会を開催し  
た。

#### 第 26 回 MTI 研究会集会

日時：平成 26 年 5 月 1 日（木）13:00-14:00

場所：パシフィコ横浜 312 室

話題提供：

1. 石井 守（情報通信研究機構） 電離圏宇宙天  
気をめぐる国際動向
2. 齊藤 昭則（京都大学） ISS-IMAP ミッショ  
ンの現状報告
3. 小山 孝一郎（台湾国立成功大学） 大きな地  
震の電離圏への影響に関する研究
4. 児玉 哲哉（宇宙航空研究開発機構） 第 22  
期学術の大型研究計画に関するマスタープラン報  
告
5. 小川 泰信（国立極地研究所） 極地研からの  
北極宙空圏に関する報告・周知
6. 津川 卓也（情報通信研究機構） MTI 分科会  
世話人より

同日夕刻に懇親会を開催し、40 名の参加があ  
った。

#### 第 27 回 MTI 研究会集会

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）12:50-13:50

場所：キッセイ松本文化ホール第 2 会議室

話題提供：

1. 西谷 望（名古屋大学） SuperDARN 北海道-  
陸別第二 HF レーダーの初期結果
2. 小川 泰信（国立極地研究所） ISAR-4 ジオ  
スペースセッションの紹介
3. 齊藤 昭則（京都大学） ISS-IMAP ミッショ  
ンの現状と今後
4. 山本 衛（京都大学） 大気圏シンポジウム  
のお知らせ
5. 細川 敬祐（電気通信大学） MTI 分科会世  
話人より

本会合にて第 6 期世話人の任期が満了となるこ  
とから、次期第 7 期世話人の選出に関する提案が  
行われた。本会合に参加しなかった方々にも配慮  
し、前例に倣ってメーリングリストにて提案内容  
が示され、特に異論がなかったことから提案ど  
り現在の第 7 期世話人が決定された。

また、同日夕刻に懇親会を開催し、34名の参加があった。

中間圏・熱圏・電離圏 (MTI) 研究集会

開催日：平成26年9月22日(月) - 24日(水)

場所：情報通信研究機構 小金井本部本館 4階 国際会議室

MTI 研究集会は、平成10年以降毎年開催されてきた。今年度は、名古屋大学太陽地球環境研究所、国立極地研究所、情報通信研究機構の主催により、宇宙ステーションからの超高層大気観測 (ISS-IMAP) に関する研究集会と同時に開催された。69名が参加し、53件の講演があった (MTI 口発表頭 15件、MTI ポスター発表 27件、ISS-IMAP 口頭発表 11件)。本集会では、特定の研究領域に焦点を絞って今後取り組むべき課題・方法を議論するために、「MTI Grand Challenge」セッションを今年度から新たに設けた。最初の年度として2つのトピック「極域と中低緯度現象の相違から理解する MTI の科学」と「大気上下結合解明に向けた MTI の科学」を扱い、これまでの理解を概観する基調講演から最新の研究紹介をして頂いた。また、大型研究プロジェクトの利用推進を図るセッションを設け、2つのトピックに関連して、超高層大気モデリングや SuperDARN 北海道-陸別レーダーを紹介する講演をして頂いた。ポスター発表では、学生・若手研究者を中心に例年に比べて多くの参加者が発表し、充実した議論の場となった。さらに、同時に開催された ISS-IMAP 研究集会における大気光観測装置 (IMAP) の最新成果の紹介に続いて、MTI 領域の将来衛星計画について活発な議論が行われた。

MTI 研究会の活動・関連情報 (研究集会など) やメーリングリストへの参加方法は、MTI 研究会ウェブサイト

(<http://www2.nict.go.jp/aeri/swe/MTI>) にて公開している。

## 波動分科会平成26年度活動報告 小研究集会

### 「プラズマ波動理論の新展開」

成行泰裕

日時：平成26年12月5日(金) 10:30-16:00

場所：京都大学宇治キャンパス「木質ホール」

SGEPSS波動研究会の研究集会は2001年以降毎年開催されており、今回は第24回の研究集会となる。本研究集会は毎回何らかのテーマを定めてそれに関するチュートリアルや招待講演を設けることが多いが、今回は表題のようなテーマについて、京大情報学研究科の小川先生に「Vlasov方程式系の非平衡統計物理学」というタイトルで、名大太陽地球環境研究所の小路先生に「電磁イオンサイクロトロン波動による非線形波動粒子相互作用」というタイトルで、それぞれ1時間程度ご講演をいただいた。また、他に5件ほどの一般講演も行われた。当日は10名余の参加者があり、普段の学会等では細かく聞くことが出来ない理論の仔細について活発な議論が交わされた。開催に際してお世話になった京大生存圏の大村先生および大村研究室の皆様がこの場を借りてお礼申し上げたい。

波動研究会の活動情報は

<https://sites.google.com/site/sgepsshadou/>にて公開している。メーリングリストも開設しているため、興味のある方は幹事までご連絡頂きたい。

## International Symposium on the Whole Atmosphere (ISWA) のお知らせ

日時：2016年9月14-16日

会場：東京大学・伊藤謝恩ホール

佐藤 薫 (東京大学)

地球規模の気候変動が内的要因や人的要因によって進行しています。中層大気は地球の気候システムにおいて重要な位置を占め、そこでは温室効果ガスの増大に伴う寒冷化が進行し、オゾン層破

壊によるオゾンホール形成が起こっています。近年、観測の高精度化、ネットワーク化が進み、これまでは捉える事が困難であった小規模現象から全球の気候変動まで、様々な時空間スケールを持つ現象を同時に観測し、それらの相互作用を調べることが可能となってきました。データ同化技術の進歩も、長期にわたる全球の均質な気象データを提供し、気候変動研究の発展に大きく寄与しています。さらに、最新の全球気候モデル、特に化学気候モデルは、中層・超高層大気を含む幅広い高度領域へと拡張され、高解像度化も進み、中層・超高層大気中の様々なスケールを持つ現象の再現や将来予測を可能にしつつあります。これらの観測やモデルは、これまでにない大量のデータを生み出すことから、それらを効率的に解析するデータ解析（データセントリック科学）の重要性が高まっており、その解析結果を解釈するための新理論の構築も進んでいます。このような状況の中、最新の中層・超高層大気研究を俯瞰し、今後の発展の方向性を議論する場として標記シンポジウムを開催します。

本シンポジウムの詳細は下記 URL をご覧ください。講演募集などについては、今後、HP の適宜更新のほか、各種メーリングリストなどで案内差し上げます。本学会からも多くの方のご参加をお待ちしています。

URL: <http://pansy.eps.s.u-tokyo.ac.jp/iswa/>

#### Conveners

Kaoru Sato (The University of Tokyo, Japan)  
Takuji Nakamura (National Institute of Polar Research, Japan)  
Toru Sato (Kyoto University, Japan)  
Masaki Satoh (The University of Tokyo, Japan)  
M. Joan Alexander (NorthWest Research Associates, United States)  
William E. Ward (University of New Brunswick, Canada)

#### Local Organizing Committee

Masaki Tsutsumi (National Institute of Polar Research, Japan)

Akinori Saito (Kyoto University, Japan)  
Koji Nishimura (National Institute of Polar Research, Japan)  
Yoshihiro Tomikawa (National Institute of Polar Research, Japan)  
Masashi Kohma (The University of Tokyo, Japan)  
連絡先: [iswa-loc@nipr.ac.jp](mailto:iswa-loc@nipr.ac.jp)

## 第 23 回衛星設計コンテスト

### 参加登録開始のお知らせ

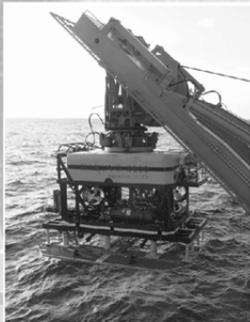
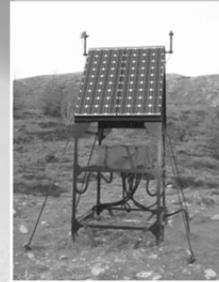
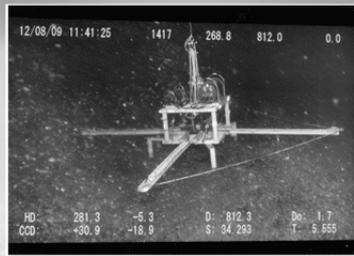
SGEPSS も主催団体となっている、衛星設計コンテストの今年度の参加登録が始まりました。参加登録期間は、4月1日（水）～5月29日（金）となっております。興味のある方は、下記ウェブサイトより詳細を御確認ください。

<http://www.satcon.jp>

（実行委員 山崎俊嗣、田所裕康、企画委員 中田裕之、審査委員 亀田真吾）

## 総合電磁気計測テクノロジー

地球科学、宇宙科学、資源科学の発展に  
 貢献するべく、最先端の技術を取り入れ、  
 高度な電磁気計測装置の開発に  
 日々取り組んでいます。



### ■ 磁力計

フラックスゲート磁力計  
 プロトン磁力計  
 オーバーハウザー磁力計  
 ポタシウム磁力計  
 インダクション磁力計

### ■ 地下電磁探査関連

TDEM測定器(送受信器)  
 比抵抗測定器

### ■ 海洋関連

海底電位磁力計  
 曳航式プロトン磁力計  
 海底電磁探査装置

### ■ 航空宇宙関連

航空機用磁力計  
 小型衛星 地磁気姿勢計  
 太陽センサ  
 磁気トルカ

### ■ 磁気試験関連

スピナー磁力計  
 磁気モーメント計測システム  
 磁気シールド

### ■ 遠隔監視システム関連

無線LAN  
 衛星携帯データ転送システム  
 太陽電池システム

地球電磁気測定器メーカー 有限会社テラテクニカ

〒208-0022東京都武蔵村山市榎 3-25-1 TEL042-516-9762 FAX042-516-9763 <http://www.tierra.co.jp/>

※カナダGEM Systems社 日本代理店

# この星に、たしかな未来を

— OUR TECHNOLOGIES, YOUR TOMORROW —

私たち三菱重工は、次の世代の暮らしと、そこにある幸福を想い、人々に感動を与えるような技術と、ものづくりへの情熱によって、たしかな未来を提供していくことを目指します。そのために私たちは、これまで培ってきた技術を磨くとともに、新たな発想で様々な技術を融合させるなど、さらなる価値提供を追求し、地球的な視野で人類の課題の解決と夢の実現に取り組みます。



三菱重工業株式会社 [www.mhi.co.jp](http://www.mhi.co.jp)

〒108-8215 東京都港区港南2-16-5  
Tel 03-6716-3111

 **三菱重工**

この星に、たしかな未来を

On Line Publishing & Data Base Service

**TERRAPUB**

## Monographs on Environment, Earth and Planets

Online ISSN: 2186-4853

<http://www.terrapub.co.jp/onlinemonographs/meep>

Open Access

**Effects of Black Carbon on Climate: Advances in Measurement and Modeling**

Yutaka Kondo

Monogr. Environ. Earth Planets, Vol. 3 (No. 1), 2015, in press

### 書籍のご案内



#### An Introduction to Space Instrumentation

Edited by K. Oyama and C. Z. Cheng

税込 15,000 円, 発売日: 2013 年 12 月

Hard cover, 240+viii pp., ISBN: 978-4-88704-160-8

URL: <http://www.terrapub.co.jp/books>

【ご購入はこちらまで】

Email: [sales@terrapub.co.jp](mailto:sales@terrapub.co.jp)

アマゾンでもご購入いただけます

TERRAPUB 〒 158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-27-19-3027

Tel: 03-3718-7500 Fax: 03-3718-4406 URL: <http://www.terrapub.co.jp>

# 論文受理率アップ! プロがやると全然ちがう 英文校正エディテージ

査読コメント対策が無料!  
プレミアム英文校正プラス

料金: 16円~(1英単語)  
最短納期: 2,500単語 (1営業日)

#### プレミアム英文校正のサービス

回数無制限・無料  
**365日再校正**  
カバーレター作成  
**無料**  
単語数削減サービス  
**20%まで無料**  
担当校正者による  
**英文評価レポート**

#### 査読コメント対策サービス

**無料**

365日間無料で何度でも使える「再校正」と「査読コメント対策」の両方が付いた「プレミアム英文校正プラス」のサービスを提供開始しました。投稿後にジャーナルから繰り返し修正を求められることはよくあります。また、査読コメントへの回答は論文採択の成否を左右します。「プレミアム英文校正プラス」ならすべてをカバーするので安心です。

### 地球学・惑星科学に特化した 英文校正

エディテージの地球・大気・惑星科学チームは38の細分化された専門分野、およびその隣接諸科学と学際分野に対応しています。各分野の知識を持った専門チームがお客様の原稿をダブルチェックし、出版に適した英語原稿に仕上げます。

#### 掲載実績のあるジャーナル一覧

▶ 出版社名: Elsevier  
ジャーナル名: Earth and Planetary Science Letters  
インパクトファクター: 4.279

▶ 出版社名: American Geophysical Union (AGU) Journals  
ジャーナル名: Journal of Geophysical Research Solid Earth  
インパクトファクター: 3.303

**ed/tage**  
by CACTUS

[www.editage.jp](http://www.editage.jp)  
お問い合わせ 03-6868-3348  
[submissions@editage.com](mailto:submissions@editage.com)

エディテージのフェイスブックを「いいね!」すると、今後もお得なクーポンやキャンペーン情報を毎月お知らせいたします。

[www.facebook.com/EditageJapan](http://www.facebook.com/EditageJapan)

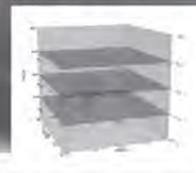
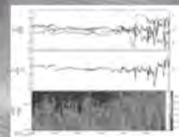
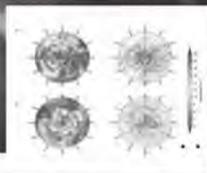




# IDL

Discover What's In Your Data.

## 電磁圏・プラズマ研究分野でのスタンダードソフトウェア



IDL は、コロラド大学大気宇宙物理学研究所出身の Dr. David Stern により、より効率的にデータ処理から可視化までを、クロスプラットフォーム OS 上で実行出来るように研究者視点から開発されております。

現在、地球電磁気・地球惑星圏学会の皆様は IDL を THEMIS 衛星データ処理 (TDAS) や SuperDARN データ処理などで多くご利用されていると思います。最新の IDL では対話形式だけではなく、開発環境やプログラミング自体も大幅に改良され、表示やフォントも綺麗で使い易くなっております。【最新版 IDL 無償評価版お問合せください】

## EXELIS

Visual Information Solutions

### Exelis VIS 株式会社

■本社 / 東京オフィス

〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル3F  
TEL : 03-6801-6147 / FAX : 03-6801-6148

■大阪オフィス

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-1-23 コウダイ肥後橋ビル5F  
TEL : 06-6441-0019 / FAX : 06-6441-0020

URL > <http://www.exelisvis.co.jp/> MAIL > [sales\\_jp@exelisvis.co.jp](mailto:sales_jp@exelisvis.co.jp)

## 学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月末日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月末日
学会特別表彰	会長	2月末日
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長	2月末日
学生発表賞 (オーロラメダル)	推薦なし/問い合わせは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	5月、7月、10月、1月中旬
国際学術交流外国人招聘	運営委員会	若手派遣と同じ
国際学術研究集会	運営委員会	5月中旬

## SGEPSS Calendar

15-5-24~28	日本地球惑星科学連合2015年大会 (幕張)
15-6-22~7-2	IUGG General Assembly 2015 (Prague, Czech Republic)
15-8-2~7	AOGS 12th Annual Meeting (Singapore)
15-8-10~12	International Conference on Space Science and Communication (Langkawi Island, Malaysia)
15-10-19~23	International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA) (Bahir Dar, Ethiopia)
15-10-31~11-3	第138回 SGEPSS総会および講演会(東京)

### 地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長	山崎俊嗣 〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学大気海洋研究所 TEL: 04-7136-6130 E-mail: yamazaki@aori.u-tokyo.ac.jp
総務	大塚雄一 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学 太陽地球環境研究所 TEL: 052-747-6317 FAX: 052-747-6323 E-mail: otsuka@stelab.nagoya-u.ac.jp
広報	橋本久美子(会報担当) 〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1 吉備国際大学 地域創成農学部地域創成農学科 TEL: 0799-42-4764 E-mail: hashi@kiui.ac.jp
	田口 聡(会報担当) 〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院 理学研究科 地球惑星科学専攻 TEL: 075-753-3951 FAX: 075-722-7884 E-mail: taguchi@kugi.kyoto-u.ac.jp
	坂野井 和代(会報担当) 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学 総合教育研究部自然科学部門 TEL: 03-3418-9328 E-mail: ksakanoi@komazawa-u.ac.jp
運営委員会(事務局)	〒650-0033 神戸市中央区江戸町 85-1 ベイ・ウイング神戸ビル 10 階 (株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局 TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp

## 賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、  
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

(有)テラテクニカ(2口)

〒208-0022

東京都武蔵村山市榎3丁目25番地1

tel. 042-516-9762

fax. 042-516-9763

URL <http://www.tierra.co.jp/>

三菱重工(株)

防衛・宇宙ドメイン誘導・推進事業部

電子システム技術部(2口)

〒485-8561

愛知県小牧市東田中1200

tel. 0568-79-2113

URL <http://www.mhi.jp>

Exelis VIS 株式会社 東京オフィス

〒101-0064

東京都千代田区猿樂町 2-7-17

織本ビル 3F

tel. 03-6904-2475

fax. 03-5280-0800

URL <http://www.exelisvis.com/>

日本電気(株)宇宙システム事業部

〒183-8501

東京都府中市日新町 1-10

tel. 042-333-3933

fax. 042-333-3949

URL <http://www.nec.co.jp/solution/space/>

クローバテック(株)

〒180-0006

東京都武蔵野市中町 3-27-26

tel. 0422-37-2477

fax. 0422-37-2478

URL <http://www.clovertech.co.jp/>

富士通(株)

〒261-8588 千葉市美浜区中瀬 1-9-3

富士通(株)幕張システムラボラトリ

tel. 043-299-3246

fax. 043-299-3011

URL <http://jp.fujitsu.com/>

(有)テラパブ

〒158-0083

東京都世田谷区奥沢 5-27-19-2003

tel. 03-3718-7500

fax. 03-3718-4406

URL <http://www.terrapub.co.jp/>

明星電気(株)技術開発本部 装置開発部

〒372-8585

群馬県伊勢崎市長沼町 2223

tel. 0270-32-1113

fax. 0270-32-0988

URL <http://www.meisei.co.jp/>

日鉄鉱コンサルタント(株)

〒108-0014

東京都港区芝 4 丁目 2-3NOF 芝ビル 5F

tel. 03-6414-2766

fax. 03-6414-2772

URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

カクタス・コミュニケーションズ(株)

〒100-0004

東京都千代田区大手町 2-6-2

日本ビル 10F

tel: 03-5542-1950

fax: 03-4496-4557

URL <http://www.cactus.co.jp>